

小学6年生選抜バレーボールチーム 大会出場を報告

1月26日、市内の小学6年生で編成する少女バレーボールチームが「SAKURA カップ」と「Intercity Glory Championship」への出場を市長に報告しました。

選手たちは「代表として選ばれたからには、優勝をめざす。最後まであきらめず、1つのボールをつなぎたい」と健闘を誓いました。



優勝めざして意気込む選抜チームのみなさん

共に考えるシンポジウム 丹波の未来を語ろう！開催



パネルディスカッションをする村上信夫さん、竹岡正行さん、中川ミミさん、黒岩功さん、西川太郎さん（写真左から）

1月28日、丹波の森公苑で市民参加型シンポジウム「丹波の未来を語ろう！消滅地方都市にしないために」が行われました。

（株）JTB西日本本社営業部の西川太郎部長の基調講演の後、西川さんらパネリスト4人とコーディネーターの村上信夫さんでパネルディスカッションが行われました。普段の活動や大切にしていることを話し、それぞれが未来のためにできることに取り組む大切さを訴えました。

地元の特産物に舌鼓 鹿肉を使ったもみじカレー登場



夢中でもみじカレーを食べる子どもたち

1月23日～26日の期間、幼稚園、小・中学校などで、小豆・猪肉・酒かすなどの県や市の特産物を使用したメニューや鹿肉の入ったもみじカレーが提供されました。

市では、有害鳥獣である鹿を有効に活用しようと、食肉に加工して、地産地消を推進しています。子どもたちは「普段食べている肉と変わらない。とってもおいしい」と夢中でほおぼっていました。

丹波へようこそ 14人の留学生が来丹

1月23日、オーストラリアのオークリーサウス小学校（メルボルン）から東小学校に留学中の14人の児童が市役所を訪問しました。両校は、平成25年から交流を続けています。

留学生たちは、氷点下まで冷え込む丹波の冬の気候に驚きながらも「留学した先輩から、丹波の話聞いて楽しみにしていた。帰るまでにたくさん経験を集めたい」と話してくれました。



ちーたんも一緒に児童と記念撮影

県政150周年記念ラジオ公開生放送 丹波三宝・ぜんざいをPR！

1月28日、丹波ゆめタウンで、MBSラジオ「サンデーライブ ゴエでSHOW!」の公開生放送が行われました。番組内では、丹波三宝の丹波栗・丹波大納言小豆・丹波黒大豆の紹介やクイズ、丹波大納言小豆ぜんざいフェアについて放送されました。

司会進行の浅越ゴエさんと豊島美雪さん、ゲストの“かつみ♥さゆり”さん、“女と男”さんは丹波三宝やぜんざいを試食。「丹波栗ってこんなに大きい!?」「これまでの人生で食べた小豆の中で一番おいしい」と大絶賛しました。また、市内のフェアに参加するお店と中継をつなぎ、堀川絵美さん・ガイガイ大脇さんがお店の雰囲気やぜんざいについて詳細にレポートしました。

延べ約1,000人の観覧者がステージをぐるりと囲んで行われた生放送は、終始笑い声が絶えない楽しい雰囲気に包まれていました。
※写真は実行委員会およびMBSラジオの許可を得て掲載しています。



浅越ゴエさん（写真左）の軽快な司会で進む生放送



丹波栗を使ったスイーツのレポートをするかつみ♥さゆりさん

給食で味わう 大切に育てた紫黒米！



紫色に染まったご飯をほおぼる西小学校の児童

2月2日、西小学校の5年生と地元の「かどのでもりもり倶楽部」が協力して育てた、古代米「紫黒米」を使った給食が提供されました。

本来の古代米を味わってもらいたいと、育て方にこだわり、ほぼすべての工程を手作業で行いました。子どもたちは「もちもちしておいしい。いつものご飯より好き。」と、笑顔で口に運んでいました。

第16打！ 和太鼓フェスタ開催！

1月21日、ライブピアいちじまで第16打！和太鼓フェスタ「響打」が開催されました。フェスタには市内外から9チームが参加。熱い思いが込められた演奏が披露されました。

会場では、お客さんに和太鼓に触れてもらおうと、太鼓を叩いてから入場する「一打入場！」が行われました。ホールだけでなく、ロビーにも和太鼓の音が響き、会場を盛り上げました。



大迫力のフェスタフィナーレのようす